



Point

安定収量の確保のため 生育をよく確認して追肥と病害虫対策を!



男鹿地区営農センター 太田 雅樹

幼穂形成期・減数分裂期の施肥

これから入る幼穂形成期や減数分裂期は、米の収量にかかわる重要な時期です。葉色の維持が大切ですが、一方で、節間が伸長する時期のため倒伏に影響を及ぼす可能性もあります。各自の生育状況を確認しながら、葉色の維持に努めてください。

※「サキホコレ」は、「あきたこまち」よりも葉色が淡く見える品種です。また、追肥がタンパク値の上昇につながるため、十分に注意して施肥しましょう。



●肥料例

幼穂形成期の場合(「あきたこまち」で7月15日頃)

肥料名	使用量
NK23号	4~5kg/10a
ニュー穂肥34号	7kg/10a
NK2号	7~8kg/10a

減数分裂期の場合(「あきたこまち」で7月25日頃)

肥料名	使用量
NK23号	6~7kg/10a
ニュー穂肥34号	10kg/10a

いもち病対策

葉色の濃いところや風通しの悪いところで発病しやすいため、注意しましょう。

●対策薬剤

使用時期	薬剤名	使用量
出穂前	ブラシン粉剤	3~4kg/10a
	コラトップ粒剤	4kg/10a ※出穂15~7日前に散布
出穂後	ラブサイド粉剤	3~4kg/10a
	ラブサイドフロアブル	1,000倍で100ℓ/10a

紋枯れ病対策

茎数過剰や葉色の濃いところ、昨年発生が確認された圃場で発生しやすいため、注意してください。

●対策薬剤

薬剤名	使用量
モンセレン粉剤	3~4kg/10a ※茎葉散布、収穫21日前まで散布

斑点米カメムシに注意!

今年は、代掻き後から好天日が続き、雑草の生育が早く進みました。そのため、除草剤の散布適期を逃した圃場で、ヒエやホタルイなどの残草が見られる状況となっています。圃場内の残草処理と畦畔や農道などの草刈りを行い、カメムシの発生密度を低下させましょう。